

日本成長戦略会議【宇宙】の方向性

- 戦略17分野（航空・宇宙）での、WG（全3回）議論含め、「危機管理投資」「成長投資」の観点から、「①ロケット・射場」「②人工衛星・サービス」「③月面探査・低軌道技術」の三項目で検討。
- 民生・安全保障両方を見据え、**戦略的・経済的重要性**を踏まえつつ、**高頻度打上げ、政府調達（アンカーテナンシー）促進、勝ち筋となる技術開発・実装支援**等による、**宇宙分野の更なる成長を目指す**。

①ロケット・射場

- 2030年代前半の**官民ロケット30発/年打上げ**の政府目標
- 技術開発(SBIRフェーズ3、宇宙戦略基金等)を推進。他方、**高頻度打上げに向けた取組は道半ば**
- 直近10年間では**国内衛星の50%は海外からの打上げ**

- 高頻度打上げに向けた、“試験施設・設備”、“サプライチェーン”、“射場”の整備、強化
- **事業者投資促進**を目指した**政府衛星等の打上げ費用のまとめ調達**
- 海外衛星受注や国内衛星打上げ増を含め、2040年には年3,000億円規模の打上げサービス需要獲得を目指す

②人工衛星・サービス

- **衛星（観測・通信・測位等）一部重要部品・中核技術**について**海外先行**
- **サプライチェーンや試験設備・地上局体制が脆弱・未整備**であり、宇宙実証含む実証機会も不足(①とも関連)
- **データ利活用はじめアンカーテナンシー要強化**、軌道上サービスに対しても**社会実装への予見可能性要**

- **衛星光通信・観測・測位衛星等の衛星技術の高精度化、製品開発、サービスの社会実装支援**
- **ユーザ官庁によるアンカーテナンシー強化**を通じた**民間資金の呼び込み**
- JAXA技術橋渡しによる民間サービス拡大
- 国際競争力を有する衛星インフラ構築により、**我が国の自律性・不可欠性を確保し**、衛星関係市場で2040年に12兆円規模の市場獲得を目指す

③月面探査・低軌道技術

- 米中の競争が激化する中で、宇宙ステーションをはじめ月面・低軌道も**官主導から官民共創の時代へ**
- 我が国は**輸送技術や、宇宙分野参入が期待される地上産業**など強みを持つが**アクセス費用が高い**
- **アルテミス計画、ポストISSで新たな市場が創出**、民間企業も参入

- **月面有人与圧ローバ、宇宙ステーション補給機開発・調達等**、我が国の強みとなる**技術を活かした国際貢献**
- 月面開発に挑戦する**民間企業の月面機器開発・実証をサポート**
- 月面インフラビジネス(世界で2040年に2.5兆円)、商用宇宙ステーション(同年3兆円)における我が国の一定の市場確保を目指す

宇宙分野の産学官の結節点：JAXAの先端技術基盤、施設・設備の充実

【現状】

【取組・方向性】